

ほほえみ♡たいむ No.1

令和7年8月5日(火)
社会福祉法人 平田保育会
病児病後児保育ほほえみ

今年は梅雨明けも早く、7月からの猛暑日続きで体調管理が大変な今日この頃と思います。

先日は「ほほえみまつり&のびのび見学会」に多数お越しいただきありがとうございました。今年は例年の内容に加えて、及川先生とリモートでお話をしたり、大型絵本やエプロンシアターの上演、ほほえみでいつも出しているうどんの試食などを行いました。いつも利用しているお子さんの笑顔がたくさん見られうれしく思いました。

今年度は年度当初より下痢・嘔吐などの症状で利用されるお子さんが多く、りんご病も散見されます。百日咳や新型コロナの流行もあり、特に百日咳に罹り治ったと思ったところに新型コロナに感染するといったケースも多くみられるようです。特に低年齢のお子さんは猛暑で体力も低下し、重症化につながる恐れもありますので、早めの対策としての予防接種が有効だと思います。

また、0~1歳のお子さんによく見られる症状としては、気温の上昇に伴って体温も上がりやすく、頻繁に発熱することがあげられると思います。それは、乳幼児は皮膚や皮下脂肪が薄いため体の内部の熱が体表面に伝わりやすいことがあげられます。お子さんを取り巻く環境の温度を調節することも体調管理には必要です。できることから実行し、暑い夏ですが元気に乗り切りましょう。



7/5(土)にほほえみまつり&のびのび見学会を行いました。暑い中ではありましたが、28組85人と昨年度にも増して多くの方々にお越しいただきました。今年は、及川医師とのリモート相談やうどんの試食、絵本の読み聞かせ・エプロンシアターなどの新たなコーナーを設け、盛りだくさんな内容で開催しました。リモート相談では「気になっていたことが聞けて良かった。」、うどんの試食では「ほほえみで子どもがたくさん食べていた味を知れて良かった。」などの感想を頂きました。また、読み聞かせ・エプロンシアターコーナーでは親子の笑い声が響いていました。恒例の金魚すくいやリユースコーナーなども賑わっていましたよ。

ご来場いただいた方々、またリユース品を提供していただいた方、その他ご協力いただいた方々、ありがとうございました。

エプロンシアター

及川先生とリモート体験



リユースコーナー

うどん試食コーナー

金魚すくい

予防接種はどうして必要なの？ それは一人ひとりの命と社会を守るため

予防接種は乳幼児の命を守るために非常に大切なものです。「小さな赤ちゃんにこんなにたくさん注射をしていいの？」と心配になる保護者さんは多いと思います。予防接種がどうして必要なのか理解していきましょう。予防接種には2つの役割があります。



★予防接種は感染症に対する免疫を作り重症化を防ぎます

予防接種に用いるワクチンは、毒性や病原性を弱めたり、なくしたりした病原体から作られます。生きた病原体の病原性を極力弱めて作った「生ワクチン」と、病原体を殺して必要な成分を取りだした「不活化ワクチン」があります。どちらも接種することで病気に対する免疫システムを作り、細菌やウイルスの感染症から体を守って重症化を防ぎます。感染症の中には赤ちゃん・子どもがかかると重症化しやすいもの、重い後遺症をもたらすもの、さらには死に至らしめるものがあります。及川医院の及川医師曰く、病気に罹らないことが良いのではなく、軽く罹って免疫を獲得することが大事だとのこと。その免疫を獲得する方法の一つが予防接種です。赤ちゃん・子どもに予防接種を受けさせ、恐ろしい感染症にかかる確率を減らしてあげること、または、かかっても軽症で済むようにしてあげることが重要です。



★赤ちゃん・子ども個人だけでなくまわりの人たちを守るために

ワクチンを接種できる人たちが、きちんとワクチンを受けることにより、地域社会での流行を防ぐことができます。免疫力の弱い人たち(ワクチンを受ける年齢になっていない赤ちゃん、妊婦さん、病気のためにワクチンを受けたくても受けられない人、体力の低下した高齢者、ワクチンは受けたけれど実際には免疫が充分についていない人など)を感染症から守ることができます。

1人はみんなのために、みんなは1人のために。ワクチンの接種は、自分のため、そしてみんなのためだということを、忘れないでください。

全国病児保育研究大会に参加して

7月20日(日)21日(月・祝)愛知県名古屋市にて、全国病児保育研究大会に参加しました。全国から1300人近くの病児病後児保育施設の関係者が集まりました。

研修では、東京大学名誉教授で白梅学院大学名誉学長の汐見稔幸先生が「病児保育とは」と題し、お話しいただきました。「病気の子どもの病児保育に預けて働くお母さんと、仕事を休んで子どもの看病をするお母さん、それぞれの生活状況に応じて選択して活用する場となると良い。また社会の様々なサポートを通じて母親父親が育児を楽しみ感じられる環境を作っていくことが我々の課題である。」とっておられました。病児・病後児保育は、子どもと保護者の皆さんの利益となるように寄り添い、時に必要に応じた専門性を活かし、アドバイスが出来るように日々学ばなければいけないと感じました。

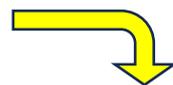


そしてこれからも、利用する子どもたちの健やかな成長を見守り続けようと改めて強く思いました。

車内に子どもを残したまま、電子キーの閉じ込めに注意！

お子さんの送迎時に、チャイルドシートに乗っている状態で、車外に出てドアを閉めたら、オートロックがかかり炎天下に子どもが閉じ込められた。電子キーは、車の中に置いているカバンの中に！手元の電子キーがなく「どうしよう」という事故が起きています。特に夏季は、車内温度が短時間でもどんどん上昇し、熱中症になる危険性があります。

最近の車の電子キーのロック解除は、スペアキーを使うか、ロードサービスに救援要請するしか開けることが出来ないほど、複雑になっています。



事故を防ぐために

- * 短時間であっても、必ずキーを持って行動すること。
- * もし、子どもが車内に閉じ込められてしまったらロードサービスに救援を求めるか、119番通報すること。
- * エンジン停止時に電子キーの電池が切れると、ドアロックされる場合があるため定期的に電池交換やカーディーラー、販売店での点検をおきましょう。

8月13日(水)、14日(木)、15日(金)、16日(土)はお休みさせていただきます。